

# 図書館部報

岡崎市現職研修委員会  
学校図書館部報  
平成23年5月31日  
No. 1

## 本を活用する授業を

現職研修委員会学校図書館部部長  
連尺小学校 鈴木 純子

2011年度小学校で学習指導要領が完全実施されました。とりわけ「言語活動の充実」が重要事項として挙げられていることは周知の通りです。ということは、校内の言語環境である学校図書館や言語活動の中心でもある読書指導・読書活動がさらに求められ、校内の全教育課程にかかわるよう推進する必要性があるということです。

今までのように「文章」を読むだけにとどめたり、単に「情報」を入手するだけに終わったりしては、日常的に本を読む子供を育てることはできないのです。だから、本を活用する授業をどのようにすればよいのか、カリキュラムを改善することが求められているのだと思います。

そこで、文部科学省より「言語活動の充実に関する指導事例集」（小学校版）が2010年12月に出されました。その事例からは、記録、説明、論述という言語活動を単に行うのではなく、それに至るまでの読書や考察が大切にされています。例えば「紹介したい本を取り上げて説明する」（4年）の事例では読書新聞を作成します。その際には、本を読んだ理由を明らかにすること、面白さを説明するための視点を意識して読むことなどが求められています。読書の姿として、「シリーズで読む」「好きな作品を見つけて読む」「同一著者の本を読む」「同一のテーマで読む」「目的に応じて本や文章を比べて読む」といった読書指導が必要とされています。

また、「課題を解決するために文章を利用し、資料を掲示しながら説明する」（6年）の事例では、事実と感想、意見を区別したり、必要な文言や数値などを引用したり、図解したりして発表原稿を作成する言語活動が求められています。読書の姿として、「重ね読みを通して文章様式の特徴を知る」「課題を追求するために、複数の本を読む」といった読書活動が設定されます。

とにかく、読むことに対してモチベーションを高め、読書をすることが「おもしろい」「楽しい」という気持ちを子どもたちが持つことがすべての基礎だと思います。そのためには、学校図書館がすべての教科のハブになって言語活動に寄与することが不可欠です。どうか、豊かな子ども読者を育てるために、一步を踏み出したいものです。

## 平成23年度 図書館部紹介

部長 鈴木純子（連尺小）  
 藤井哲也（美合小）  
 近藤博之（矢作中）  
 指導員 浅井圭子（福岡小）  
 世話係 丹下知佐子（矢作西小）  
 角南純子（上地小）  
 近藤秀子（矢作北中）  
 河内恵実（額田中）  
 田村実千子（矢南小）  
 都筑郁代（岡崎小）

## 第22回読書感想画中央コンクール 優良賞受賞

岡崎市立城南小学校3年山田磨怜さんが指定図書の一部

「おたすけ妖怪ねこまんさ」(横山 充男・作 よこやまようへい・絵— 文研出版)で優良賞を受賞しました。

主人公が猫に変身してしまい、妹の飼っているハムスターを食べてしまいそうになるところを何度も色を重ねて、工夫して描くことができました。



(文：城南小学校 中根 理恵)

## 《第57回青少年読書感想文全国コンクール課題図書》

学 年	書 名	出版社
小学校低学年	ものすごくおおきなプリンの上で	教育画劇
	がっこうかっぱのイケノオイ	童心社
	アリクイにおまかせ	小峰書店
	エディのやさいばたけ	福音館
小学校中学年	ヤマトシジミの食卓	くもん出版
	わたしのとくべつな場所	新日本出版社
	忘れないよリトル・ジョッシュ	分研出版
	ホスピタルクラウン・Kちゃんが行く	佼成出版社
小学校高学年	こども電車	金の星社
	天風の吹くとき	国土社
	犬どろぼう完全計画	文溪堂
	クジラと海とぼく	アリス館
中学校全学年	聖夜	文藝春秋
	スピリットベアにふれた島	鈴木出版
	夢をつなぐ	角川書店

## 平成23年度 学校図書館 重点目標

豊かな心情を培い、主体的に学ぶ力を育てる

「読書の楽しさを知り、進んで読む態度を育てる」

「情報・メディアを活用する能力と自ら学ぶ意欲を育てる」

積極的な活動をお願いします。